

学校関係者評価委員会

2024年度 第1回委員会 議事録

1. 日時・場所

2024年11月7日（木） 18:00～20:00

修成建設専門学校 1号棟4階 146教室

2. 出席者

● 委員 ※敬称略

- 丸山 徹 卒業生保護者
- 相賀 勝 元吹田市理事
- 藤田 晴樹 株式会社ジェイネット 代表取締役（委員長）
- 市岡 武 村本建設株式会社 常任顧問
- 大槻 憲章 NPO法人 おおさか緑と樹木の診断協会 理事長
- 田中 文雄 大和田振興町内会 会長
- 大和 正 学校法人興國学園 興國高等学校 渉外顧問統括 校務運営委員長
- 壺山 和憲 壺山建設株式会社 取締役社長

● オブザーバー（学内教職員）

- 山下 裕貴 学校法人修成学園 理事長
- 見邨 佳朗 校長
- 谷川 博康 学生相談室室長
- 鍵谷 啓太 副校長兼空間デザイン学科科長
- 野瀬 孝男 副校長兼建設エンジニア学科・ガーデンデザイン学科科長
- 堤下 隆司 学校法人修成学園 顧問
- 塩田 久及 事務局長
- 亀井 哲男 経営戦略室室長
- 藤本 喜代志 広報部長

3. 配布資料

- 2024年度 第1回委員会 議事次第
- 委員一覧
- 学校自己評価報告書 採点用紙

4. 議事

委員長挨拶（藤田委員長）

- 冒頭、令和7年4月1日施行の建築基準法・省エネ法の改正について触れ、建設業・業務への影響への懸念について、在校生にも理解させていただきたい。

学園より挨拶（山下理事長）

- 学園の現状について報告した。

各分野の報告

- 建築分野報告（鍵谷副校長）

- 自己点検評価書（基準3、基準4）に基づき、建築系学科の報告を行う。
対象学科：建築学科(昼・夜)、建築CGデザイン学科、空間デザイン学科、住環境リノベーション学科、専科1・2級建築士科
- 建築学科（昼）
 - 全ての項目において適正と判断。
 - 新しい人材（教員）の確保に努める。卒業生の回帰、一級建築士を取得し教員として後進の育成に努める。
 - 目標とする資格取得に努めている。
 - 進学（専科・大学編入）という進路選択が大幅に増加。
- 建築CGデザイン学科
 - 基準3-13-2をほぼ適切と判断し、残る項目は適正と判断。
 - 学科において取得を目指す資格について体系化を進め、改めて整理し学生指導に活かしていく。
 - 学習成果についても全ての項目で適切と判断した。

- 就職後の離職率を低減させる手法の模索。

- BIM教育の充実で企業ニーズに応える。

- 空間デザイン学科

- 基準3-13-2をほぼ適切と判断し、残る項目は適正と判断。

- 住環境リノベーション学科

- 複数項目についてほぼ適切と判断し、残る項目は適正と判断。

- 建設DX分野の教育を積極的に取り入れ、今後の現場管理に活用できるようにしたい。

- 実践実習の強化を図りたい。

- 建築学科(夜)

- 産学連携関連がほぼ適切、その他は適切と判断。

- 夜間生でもインターンシップができるシステムの構築を図りたい。

- リカレント教育の需要増大に伴い、専門教育科目の教員採用に力を入れる必要がある。

- 専科2級建築士科

- 教育課程は適切に運営されている。

- 全ての項目において適正と判断。

- 例年通り建築士は、高い合格率を誇っている。

- 専科1級建築士科

- 教育課程は適切に運営されている。

- 土木・造園分野報告（野瀬副校長）

- 自己点検評価書（基準3、基準4）に基づき、土木・造園系学科の報告を行う。

対象学科：土木工学科、建設エンジニア学科、ガーデンデザイン学科

- 土木工学科

- 個々の学生の適性にあった教育を実施し、浮きこぼれを防止する。

- 公務員希望1名を除き全て進路決定。

- 建設エンジニア学科

- PCを全員に購入させているが、教育に供する資料を全てデジタル化するのではなく、アナログ教材併用でより学習内容の定着を図っている。

- 資格制度の変更に伴い、1年次の間に2級施工管理技術検定の合格を目

指し、2年次には1級施工管理技術検定を目指して指導を続けている。

○ ガーデンデザイン学科

- 全ての項目において適切と判断。
- 授業内容の創意工夫に努めたい。
- 学科目標の資格取得を訴求している。
- 進路決定率100%を達成。
- 技能士等の学科目標の資格について高い合格率。

● 学校全体について（見邨校長）

- 学校理念・目標について説明。
- スタディマップや目標とする資格取得、目指すべき目標を学生個々に設定し、サポートしている。
-

意見交換

一級建築士の合格率について

- 大槻委員：P44専科1級建築士科の学習成果において、学科に比べ実技（製図）の合格率が低いのはなぜか。
- 鍵谷副校長：一級建築士を受験する大多数は実務者である。製図試験については、実務経験がある社会人にアドバンテージがあると言える。しかしその中でも、この合格率であったことは誇れる数字である。

人材確保と離職防止について

- 市岡委員：資格取得に尽力されている姿を感じ取れた。民間企業は、人材確保について、様々な学校種から人材を採用している。入社後も、社会に貢献できる人材になってほしいと願って社員教育を行っているが、退職は減らない。一昔前の退職理由は人間関係やなにかしらの重大な理由があった。現在では企業努力により、所謂、退職理由を排斥しているものの、それでも退職は減らない。企業として間違った改善をしている可能性もある。学校の現場で拾うことのできる生の声を企業にも聞かせていただきたい。

- **鍵谷副校長**：学内でも入学不本意の問題がある。学生の気質の変化、多様化し苦慮している部分がある。学生のミスマッチを防ぐため、キャリア教育を充実させている。在学中に職業の内容や、それぞれの業務の進め方など、進路係とも連携して学生への教育に反映している。企業で起きていることと同質の問題が学校の教育現場でも発生している。（学籍異動）
- **山下理事長**：採用企業からヒアリングをしている。どうしても入社後のミスマッチは避けられない。
- **市岡委員**：入社同時の配置希望と合わない、希望の職種に就ける他社に移ってしまう。
- **山下理事長**：現在は企業努力により、昔と比べかなり優遇され福利厚生もしっかりしている。
- **市岡委員**：設計業務より現場の管理業務の方が会社にとってウエイトが大きいいため、企業側も配属に苦慮している。学科ごとの特色を出しつつ教育・指導をしている。大きなカテゴリーであると漠然としているが、間口を絞っているためわかりやすい。情報学部を例にとると、その中にたくさんの分野が細分化され存在している。企業からみると専門的なスペシャリストはたくさん存在しているが、組織的な活動にあたっては難しい人材となりうる。現在ほしい人材はスペシャリストをまとめ上げるマネジメント層が必要。企業経営の面からみると人材が不足している。分業化がもたらす問題もある。スペシャリストも必要であるが、応用力を身につけてほしい。

インターンシップ・外国籍人材について

- **壺山委員**：インターンシップを実施している。学習上のことと実務上の連携。就職後の定着率が良い。インターンシップの参加率について
- **山下理事長**：コロナ前に比べインターンシップへの参加率は下がっているが、確かにインターンに参加している学生の職業理解が深まっている。今後、このインターンシップ参加率の向上が必要である。
- **壺山委員**：外国人留学生の採用に躊躇していたが現場の声では非常に優秀である。留学生の受け入れについては今後門戸を広げていくのか。
- **山下理事長**：アワーズ受賞などを理由に外国人留学生のイベント参加などが増えている。学校としても今後、受け入れを増やしていく予定である。
- **壺山委員**：職人レベルではかなりの人数の外国人が参入している。施工管理となると

日本語力を含め、かなりの能力が必要と考えていたが、前向きに採用を検討したい。

就職先の分野について

- 相賀委員: 公務員、民間企業、コンサルの就職率はいかがでしょう。
- 山下理事長: 公務員のニーズはあるが、公務員試験が遅いため、民間に流れる傾向にある。
- 藤田委員長: そもそも行政の中に設計職がない。地方自治体の専門職人材が足りていない。
- 大和委員: 就職の比率は少ないが、高等学校普通科の生徒が鉄道会社の電気・機械職に就職した。
- 相賀委員: 企業内での教育が整いつつある。

リカレント・リスキリングについて

- 丸山委員: リカレント・リスキリングが世の中で言われているが実際のところどうなのか。営業活動として考えたときにリスキリングをどのようにとらえているか。
- 山下理事長: 学びなおし、夜間生のある本校の特性をいかして、企業のニーズに応えている。大学文系を卒業して入社後、本校でスキルアップしている。夜間部の存在が企業にとってはリスキリングや、福利厚生材料になる。
- 見邨校長: 建築を学ぶことで、現在の自分自身の職業・職域から更に幅を広げることができる。

面談・訪問する企業について

- 委員: 来校企業の数はいくつぐらいですか。
- 回答: かなりの数が来校している。
- 丸山委員: 以前、付き合いのある企業を修成建設専門学校の教員に面談いただいたが、非常に喜んでいた。
- 見邨校長: 来校し面談を通じて求人を出していただくことで、具体的にどのような人材を必要としているのかが学校としても把握できる。インターネットでも求人を出

すことができる時代だが、お時間を作っていただけるのであれば、ぜひ直接お話を伺いたい。「企業側も来校することで生の声を聞けてる」と喜んでいた。

学生からの相談について

- **藤田委員長:** 学生相談の内容を聞きたい。現代の学生が悩んでいることとはどのようなことがあるのか。学生の進路決定プロセスは（今後一生の方向性を決めるという意味で）大変なことなのではないだろうか。
- **谷川室長:** 学習面、資格取得に関する相談（ポジティブ）、メンタル面、家庭内不和、クラス内の人間関係など

これから求める人材について

- **市岡委員:** 現在の建設業界の市場は、バブル期から比べ減少している。今後の建設業界のトレンドは一層下降している。新築はもはやない。景気に関係なく、インフラ整備を名目に予算が計上される。古い基準の建物を更新する必要があったが、今後、人口減や新基準建物に入れ替わることで、今後、実務においても新築の設計をする機会がなくなるのではないか。補助金により設置した建物の用途変更ができないが、行政の在りようや法令そのものの変更が必要である。マネジメントや新築以外のことができる人材が必要。教育思想そのものを考え直さなくてはならない時代になっている。持続可能、脱炭素の世の中、オールマイティーな人材が必要。という意見をいただく。教育に盛り込んでほしい。
- **鍵谷副校長:** BIMに特化した学び、総合的な学び、プロジェクトマネジメントの重要性を認識させている。
- **市岡委員:** 改修工事のみではなく用途変更をするにあたって、法令の壁がある。行政がそれを判断できない。イノベーションと建築という新たな価値を生み出す融合を学んでほしい。
- **丸山委員:** 行政も困っている。条例も変えていく準備ができていて、実際に行動に移しつつある地方公共団体もある。そこに学生が参加する方法を考えてみるのもいいかもしれない。復興事業には学生の意見が必要である。ぜひ貴校の学生にも協力をいただきたい。

採点用紙について

- 見邨校長: 各委員に本会議での報告事項、意見交換の内容を基に、2023年度の自己点検・自己評価報告書の評価をお願いしたい。